米子水鳥公園 レンジャー通信

水鳥公園の指導員（レンジャー）によるさまざまな活動をご紹介します。

■問合せ　米子水鳥公園（☎24−6139、FAX24−6140）

コハクチョウの北帰行

毎年2月になると、水鳥公園にコハクチョウが集まってきて数が増えます。

おそらく、中海や宍道湖の周辺に分散して越冬していたコハクチョウが、北の繁殖地への移動を少しずつ始めていて、水鳥公園に集まるのだと思います。このように、渡り鳥が北へと旅立つ様子は「北帰行（ほっきこう）」と呼ばれます。北帰行とは、元々は歌の題名なのですが、今日では渡り鳥の旅立ちを表す言葉として、広く使われています。

コハクチョウは、毎年2月下旬から3月の、夕方遅くから翌朝早くにかけて、水鳥公園を旅立ちます。

北帰行がピークを迎えると、水鳥公園から続々と旅立つ一方で、どこからともなく群れが舞い降りてきます。そうなると、水鳥公園上空でコハクチョウが交錯し、大変な賑（にぎ）わいとなります。

北帰行には、北東方向をめざすものと真北をめざすものがあります。前者は日本列島沿いを北上し、後者は日本海を縦断して大陸をめざすと考えられています。過去の調査で900kmを13時間で渡ることが分かっています。

コハクチョウが旅立つ様子を見送る時、また来年元気な姿で帰ってきてくれることを祈らずにはいられません。

米子水鳥公園専任指導員　桐原　佳介

粟嶋神社を越えて
北東へ旅立つ群れ

約100羽の群れが一斉に
旅立ち真北をめざす

美術館通信

特別企画展

神々の微笑（ほほえみ） ― 小灘一紀（こなだいっき）　絵画のあゆみ

会　期　2月16日（日）～3月15日（日）【水曜日休館】

会　場　米子市美術館　第2・4展示室

洋画家・小灘一紀（こなだいっき）が2017年、日本を代表する全国公募の美術展「改組新第4回日展」にて最高賞の内閣総理大臣賞を受賞したことを記念し、小灘の画業を郷里で一堂に紹介します。

小灘は1944年境港市生まれ、米子市立第四中学校卒業、鳥取県立米子東高等学校では金畑実（かねはたみのる）に師事、金沢美術工芸大学彫刻科を卒業。29歳で日展初入選以後、日展作家として活躍し、現在は日洋会理事長などを務めています。また毎月一度は帰省し、洋画グループ「実紀（みき）の会」などでこの地の画家の育成にも尽力しています。

本展では、自らをモデルとした人物画の時代から神話絵画に至るまで油彩画約70点を展示し、小灘一紀の世界を紹介します。

問米子市美術館（☎34−2424、FAX33−0679）

小灘一紀《伊須気余理比売（いすけよりひめ）》2017年　油彩、カンヴァス
※改組新第4回日展　内閣総理大臣賞受賞作